

見たいゆめの世界へ（図画工作科 表現）

本題材は、「実際にはありえないけれど、もしも叶うとしたら……」と、想像の世界について考え、その世界で自分がどのように楽しんでいるか思いを馳せながら、心の中に浮かんだイメージを絵に表す活動である。

「ドリームまくら」から広がるゆめの世界

発想・構想段階においては、自身が持っているイメージとじっくり向き合い、形や色といった造形要素でイメージを明確にしながら、主体的に構想していく姿を目指した。そこで、夢の世界を描くことに先立って、白色封筒の中にくしゃくしゃにした新聞紙を詰めて、枕に見立てた「ドリームまくら」をつくった。例えば、「虹の世界を表したいな。」と思った子供は、まずは虹の絵をドリームまくらに描くことで、「虹の上で寝てみると、夢の世界ではあんなことやこんなことができそうだ。」と、ドリームまくらに描いたものを発想のきっかけとして、様々に思いを膨らませていった。また、ふっくらとした感触のドリームまくらに頭を乗せ、空想の世界に浸る時間を設けることで、自分のイメージと対話し、心の中のイメージを引き出していった。

思いに合った表し方を比べたい選んだりする姿

表現段階において、「かすれていく感じも水しぶぎに合いそうだ。」「そうだ、こんな楽しい夢の様子も思い付いたよ!」「〇〇さんの表し方も素敵だね。」と偶然できた様子やさらに思い付いたこと、友達の表し方などから選択肢を増やし、「混ぜてできた絵の具でスースーぬりで描いてみると、表したい空になるよ。」というように、表すためにぴったりの方法を選択しながら、造形的に「よい、面白い」表現へと向かう姿を目指した。



ドリームまくらに描いたのは、好きな鳥とサッカーボール。夢の世界では二つの「好き」が合わさって、サッカースタジアムの上空を鳥になって飛ぶことができる。



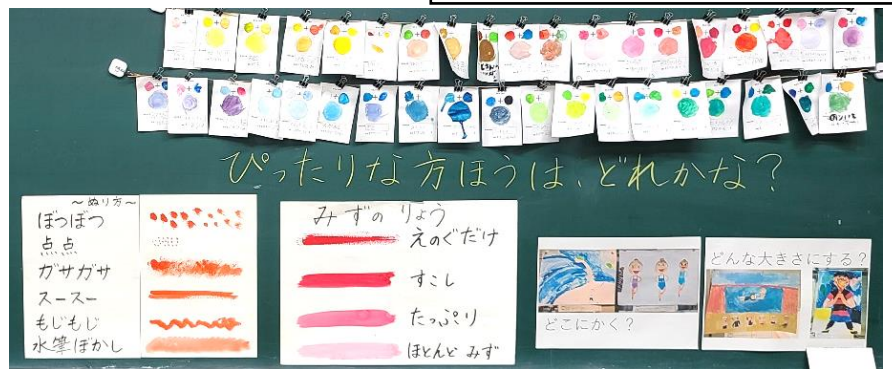
シャチが描かれたまくら。水中をシャチと仲良く泳ぐ夢へとつながっていく。



地球のまくら。ヨーロッパの街へと旅する夢を見ることができる。



暮れなずむ空のまくら。夜空に虹がかかる夢の世界へと誘ってくれる。



そこで、これまでの学習で子供たちが見いだした方法を、絵の具を中心に「混色によってできる色」「筆跡」「水の量」等で整理して掲示しておき、経験的知識を想起できるようにしておいた。また、毎時間の子供たちの振り返りについて、例えば「木の葉の部分を、一番頑張りました。絵の具の筆をぼつぼつと当てて、かきました。」と振り返っている子供には、「筆先の置き方を工夫したんだね。」と価値づけていくことで、どの技能を発揮できたのかを実感できるようにした。(木村仁)

